

参加された皆さまの発言を尊重して、修正せず当日発言された内容を掲載することを基本にしていますが、下記のとおり掲載にあたって配慮を行っています。

- ・ 発言者については氏名を記載せず、NUMO 職員については NUMO と、ファシリテーターについてはファシリテーターと、テーブルファシリテーターについてはテーブルファシリテーターと記載しています。
- ・ 個人名の特定につながり得る発言等、文書として公開するにあたって配慮が必要な部分については、一部加工しています（「〇〇」と記載）。ただし、シンポジウムに登壇した専門家、NUMO 職員、ファシリテーター、テーブルファシリテーターの氏名が、発言中にある場合は、そのまま記載しています。
- ・ 記載することで発言の内容がわかりやすくなり、かつ発言中の議論に影響を与えないものについては、一部加工しています。

### 神恵内村 対話の場（第8回）会議録

1. 日 時：2022年6月9日（木）午後6時30分から午後8時31分

2. 場 所：神恵内村漁村センター

3. 会議録：

（1）開会

○NUMO

皆さん、こんばんは。NUMO 神恵内交流センターの紫藤でございます。定刻になりましたので、ただ今より第8回神恵内村対話の場を開始したいと思います。

まずは資料に関してのお詫びでございます。昨日、委員の皆さまには事前に資料をお配りさせていただいておったんですけども、そのうち5月29日のシンポジウムの吉田先生の資料の一部に不調がございまして若干見づらいところがございましたので、改めて吉田先生の資料を今日、机の上に配付させていただいておりますので、お手数でございますがこちらに差し替えをお願いいたします。

それではいつもと同じように、これから先はファシリテーターの大浦さんと佐野さんに進行をお願いいたします。それでは大浦さん、佐野さん、よろしくをお願いいたします。

○ファシリテーター

皆さん、こんばんは。今日も進行を担当させていただきます大浦でございます。それと、

○ファシリテーター

同じく進行を担当させていただきます佐野です。どうぞよろしくをお願いいたします。

○ファシリテーター

それでは、始めていくにあたって毎回同じこととお話し申し上げておりますが、対話の場を始

めるにあたっていつものご挨拶をさせていただきたいと思います。

今日もご参加いただきありがとうございます。今日の流れですが、「はじめに」の話をさせていただいております。その後、運営委員会の報告が入りまして、今日のテーマといたしましては、5月29日にこの場で開催されましたシンポジウムの振り返りをさせていただきたいと思っております。その後、振り返りをちょっとしてからグループワークをして、最後に全体の振り返りをやるというような流れを考えております。

すみません、毎回毎回しつこく同じことを申しておりますが、私たちがこの場をやっていく場のルールといたしまして、私たち自身が、僕と佐野さん、あるいは今来ているファシリテーターのみんなの立ち位置といたしましては、書いてある通り、科学技術を正しく恐れる活動に関わり、ある特定の意見の誘導だとか、特定の意見の人たちに加味するだとかいったような形の場には関わらない、そういう行為は行わない、というルールで私たちはこの場に参加させていただいております。この場のあり方ですけども、ここに来ているのは、私たちは今日ここにいる皆さま方のためにまずおります。それともう一つ、神恵内のことを心配してくださっている方がたくさんいらっしゃいますので、そういう方々も私たちにとっては大切な方々です。それと最後3つ目、地層処分となりますと10万年もの間、地下に放射性廃棄物を埋めて隔離しなければなりません。将来の世代の人たちのためにも、意味のある対話を続けていきたいと思って、この場に立たせていただいております。

対話の場の約束事です。これは最初第1回目のときに、皆さん方とご相談して「こういう約束でやらせていただけませんか」ということをご了承いただいたルールです。そもそも対話というのは、皆さん方でお話をしていただくことが目的ですので、そのせいで皆さん方に改めてまた分断が起きたり、争いが起きたりということは、この場の望みではありません。そのため約束事として、「お互いの意見に耳を傾け一人で場を独占しないようにする」ということだとか、あるいは「人の意見を否定することはやめましょう」ということについて、これは皆さん方と合意して決めたことです。ただ、その時にも話しましたが、こういうルールは状況が変われば変わっていくものだと思っております。もしかして今、皆さん方、何度か経ってきた、今日で8回目になりますが、8回経ってきて、「このルールはちょっとどうなんだろうかな？」というご意見があれば喜んで変更していこうと思っておりますが、皆さんいかがでしょう？このままで進めてよろしいでしょうか？

では、この形で今日も進めさせていただきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。それでは、引き続きまして運営委員会について NUMO さんからご報告をお願いします。

## (2) 運営委員会からの報告

### ○NUMO

それでは事務局より5月23日に開催されました運営委員会について報告をいたします。まず、今回第8回の内容についてでございますが、前回実施した地層処分のリスクと安全対策の続きを実施することにしておりましたが、「5月29日にシンポジウムが開催されるのでその振り返りを

実施したらどうか」と運営委員会で話し合いがあり、今回はシンポジウムの振り返りを実施したいと思いますがいかがでしょうか？よろしいでしょうか？

それでは、今回はシンポジウムの振り返りを実施したいと思います。

続きまして、今後の対話の場の実施内容についてでございます。お手元の資料1をご覧ください。今後の対話の場につきましては、本日の第8回をシンポジウムの振り返り、次回第9回は前回の続きで地層処分のリスクと安全対策、そして第10回なんですけども、資料1の後に付けてある資料、こちらは3月29日の第6回で報告いたしました村民アンケートの結果でございますが、こちらにありますとおり、関心の上位にあります地域振興をテーマに開催したいと思いますがいかがでございますでしょうか？よろしいでしょうか？

よろしければこちらの案で進めさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。なお、実施内容につきましては、対話の場の委員の皆さまですとか、村民の皆さまのご意見を踏まえて変更することもございますので、その際は改めてご相談させていただきます。

以上が運営委員会の報告なんですけども、あと事務局から幌延の視察についてご報告させていただきます。5月30日から6月1日に実施をいたしました幌延の視察でございますが、今回は対話の場の委員の方1名、あと対話の場の委員以外の村民の方4名、合計5名が参加して実施いたしました。今後とも引き続き幌延の研究センターですとか、青森県六ヶ所村にございます日本原燃の再処理工場等の視察を実施してまいりたいと思いますので、またぜひ参加のほう、よろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。

○ファシリテーター

どうもありがとうございました。今の事務局からの報告についてご質問ご意見ありませんか。運営委員会の皆さん、大丈夫でしょうかね？

それでは、随分予定よりも早めに進んでいますが先に進めていきたいと思います。先ほど皆さま方にお話したように、5月29日（日）にこの場所で開催させていただきましたシンポジウムの振り返り、これを今日テーマにしていきたいと思っております。この時は、お二方ご登壇いただきました。このお二方に当日どんなお話をさせていただいたのかとか、あるいは、どんな質疑が出たのかということについて、いつも僕と一緒に進行させていただいております佐野さんが、当日記録を取りながらやっただいておりましたので、その記録などに基つきながら、これから振り返りをさせていただこうと思います。それでは佐野さん、よろしく願いいたします。

### （3）シンポジウムの振り返り

○ファシリテーター

皆さん、こんばんは。すみません、いきなりマスクをちょっと取ったんですけれども、前回マスクをしたまま話したので、とても聞きづらかったというご意見がありました。今日は、皆さんとは少し距離があるので、申し訳ありません、私だけここで話す時はマスクを外して、皆さん

に分かりやすいようにお話しさせていただきたいと思います。それでもちょっと聞き取りづらいよ、とか、分かりにくいよ、という時は、ぜひ手を挙げて、声を上げて教えていただければと思います。

ここから15分ぐらい、前回のシンポジウムの振り返りをさせていただきます。もしかしたら、参加された方にとっては「前回聞いてるよ」とか、「分かってるよ」という内容もあるかもしれません。というか、そういう内容ばかりになるかと思います。ちょっと記憶を取り戻すという意味でも、最初少しお付き合いいただけたらと思います。シンポジウムに参加されなかった方には、ぜひ最初の15分は簡単なまとめですが、後でまたもう少し詳しくご説明をさせていただきますと思っています。皆さんのお手元には2つシンポジウムの資料がいています。1つは、「地層処分制度から見えた課題」という資料、そしてもう1つは、日本地図が書かれている「高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する技術と課題」という、スライドの印刷物が皆さまのお手元にいております。私がこれからお話しするのは、皆さまのお手元にあるものを大まかにまとめたものですので、内容は違いますが、お手元の資料を参考にしながらご覧いただければと思います。

まず概要です。5月29日（日）、午前中に小学校・中学校の運動会があったと聞いています。その日の午後3時から午後5時半まで、ここの漁村センターで行いました。計74名の方に参加をしていただきました。

大きな流れとしては、まず初めの説明があり、村長さんからのご挨拶があり、いつも大浦さんがやったださっているファシリテーターの紹介、それからNUMOが使っている地層処分の説明ビデオを15分ほど見ました。こちらのビデオは、対話の場の皆さんも以前ご覧いただいているものかと思います。その後、講師としていらっしゃっていただいた、登壇者として来ていただいたのは伴先生と吉田先生のお二人ですけれども、最初に伴さんのほうから、「政策的な課題」についてご説明をいただきました。その後ちょっと質疑応答、頂いていた質問を受けてお答えいただいて、その後、休憩をして、それから今度は吉田先生が「技術的な課題」についてご説明をいただきました。その後もう一度伴さんに戻ってきて、伴さんからもご説明をもう一度いただきました。最後に、登壇してくださったお二人から皆さんへのメッセージということでいただきました。

最初に、伴先生がお話ししてくださったことを簡単にまとめてお伝えしたいと思います。伴先生がどういう方かというと、原子力資料情報室というところの共同代表をされているそうです。もう一人の方と一緒に共同で代表されているそうです。この3月までは、政府の地層処分ワーキンググループの一員だったそうです。後から出ていらっしゃる吉田先生も、同じくワーキンググループの一員だそうです。伴先生がお話くださったのは、主に「制度から見た課題」、もう1つは「安全や科学技術の課題」、大きく言うと2つのところからお話をいただきました。

もう一人は吉田先生です。吉田先生は、名古屋大学で教授をされています。同時に、その博物館の館長をされています。主な専攻分野が、環境地質学・応用地質学というものだそうです。主に吉田先生からは、「なぜ地層（地下）処分なのか？」それから「なぜ多重バリアなのか？」、「日本の地質環境の特徴は？」というところからお話をいただきました。ここから、もう少し詳

細にそれぞれのお話を説明していきたいと思います。

まず、伴先生のお話くださった中の「政策的課題」という側面です。伴先生は、現行の制度に対してこんな課題があるのではないかというのを挙げていらっしゃいます。まず1つ目は、まさに神恵内村に起きている事ということで、文献調査の申し入れをする前に都道府県知事の同意も必要とするべきなのではないか、ということをお話いただきました。文献調査を行っても、都道府県知事が反対をしている状況だと地元で混乱が起きるということから、都道府県知事の同意が必要ではないかということをお話してくださいました。2つ目は、文献調査段階では交付金を支給しない、ということを経験として挙げられています。これは質問としてもあがっているので、もう少しご説明いたしますが、地場産業が衰退して飲食業や建設業が発展して交付金に依存する体質になってしまう、ということが課題としてあるのではないか、という提言をいただきました。その次です。使用済み核燃料も高レベル放射性廃棄物も種類と総量を確定する、という話です。伴先生から、使用済み核燃料、そして高レベル放射性廃棄物、今、ガラス固化体というような話が出ていますが、それ以外にも、どんなものをどれだけの量を埋めるのか。それについて、まず走り出すのではなく全部の総量を確定し、どの種類をどのくらい廃棄するのかということを確認して、それから処分方法や安全評価を研究すべきなのではないか、というご意見でした。そして、全部を再処理、ゴミの中から核燃料取り出すという方法はコストが高いので止めるべきではないか、という話もありました。政策的課題がまだ続きます。その次に、貯蔵を継続して議論と研究を進めるべき。今の段階では、地層処分が決まったらすぐに埋めるということになっていますが、そこにいく前に、まず、ある程度の期間、地上で保管をして半減期で（放射能レベルが）ある程度落ちるのを待ち、その間に議論と研究方法を進めるのが良いのではないか、というご意見でした。その次は、先ほど言ったように核のゴミの総量、それに応じた処分方法、何が核のゴミとされるのか、それを決めて、総量を決めて、それについての処分方法と選択肢を挙げて議論したほうが良い。まず先に総量を確定すべき、というのが伴先生のご意見でした。そして6番目が、以前の決定を覆せる仕組みが必要。例えば、もっと他に良い方法が見つかるかもしれない。その時に、今まで進んできたことを覆すという方法が決まっていない、というのが伴先生のお話でした。

そこで質疑応答がありましたので、その中の一部をご紹介します。まず、「交付金について」ということです。皆さまからご質問が270ぐらいあったんですけども、その中でも交付金に関わる質問がたいへん多かったので、こちらのほうで「交付金について」ということをご質問いたしました。まず吉田先生に、この交付金について、何か吉田先生が知っていらっしゃることをお伺いしました。先生は、以前幌延と同じような地層処分の研究施設が岐阜県の瑞浪市にあったんですけども、そちらにお住まいだということで、詳しくは分かっているけれども、交付金は地域振興やインフラに使われていたようだった、ということをお話し下さいました。また、伴先生からは、先ほどお話いただいたことの補足として、交付金でインフラを造ると、役所の庁舎等を造るとその維持費が増えてしまう。原子力に代わる収入源が見いだせず、原子力を結局増設してほしいという要望があった。これは福島県の第一原発の第7号機、第8号機を増設する申請をする、というような話があったということをお話くださいました。伴先生とし

ては、人口も減っていくし大変な時期だとは思いますが、原子力の交付金より、各地のその場所場所での地場の産業を活かしていくほうがいいのではないかと、というお話がありました。

続いて、伴先生に代わって吉田先生のお話です。吉田先生は応用地質学からの技術的な課題をお話してくださいました。最初に、地層処分以外の海洋処分ですとか宇宙処分といったものは、国際的な取り決めで凍結されている、という話がありました。それから、なぜ地下に埋めるのか、なぜ地層処分なのか、ということで、皆さんのお手元に吉田先生の資料には写真入りで解説があるんですけども、実はアフリカで発見されたものが20億年くらい前に地下の400メートルぐらいの所で核分裂反応が生じていた。つまり原子力発電で行われているようなことが自然と起きていたんですけども、それが地下に隔離されていたために、地表上にほとんどその影響がなかった、ということをお話してくださいました。それが、いわば天然の地層処分、人間が全く関わっていないんですけども、地下で核分裂が起きて、それが地表にはほとんど影響しなかったということから「天然の地層処分」と言えるのではないかと、ということをお話をいただきました。それから、地層処分にガラス固化体、ガラスを使うということはなぜか、というところでは、これも資料の中に写真が入っているんですけども、1800年代にはウランが危険なものだということが分かっていなかったために、ガラスにウランを混ぜ込んで成形をしてガラスが作られていた。この放射能によって、ガラスの非晶質構造というものが破壊されてない、ガラスが放射能によって破壊されていないということがガラス固化体を使用する、選ぶということにつながっているというお話がありました。それから、鉄でガラス固化体を覆うのはなぜか、ということに関しては、鉄というものがほとんど腐食せずに残る。これはローマ時代の釘が今でも現存しているということから、腐食しないという性質を活かしてガラス固化体の周りに鉄を使っているというお話がありました。こうしたいろんな状況を踏まえて、地層処分に必要なのは地震動、地震の動きや火山活動、地下水、それから地上の風（の影響を受けにくいこと）。この地下水の中には、水のpH、酸化の状態ですね、そうしたものが含まれているんですけども、こうしたいろんな影響を受けにくいコクーン、コクーンというのは繭のような場所が、この地下の中にあるということが必要だ、というお話がありました。

吉田先生に対する質疑応答、質問の中から吉田先生にお答えいただいたご質問があります。まずは、神恵内村の地質の特徴を教えてください、ということです。これは対話の場の皆さんとは何度かお話ししてきたかと思うんですけども、水冷破碎岩というものがある。それから柱状節理、火山から溶け出したものが柱状になっているものがある。その水冷破碎岩と柱状節理が混在しているのが、この神恵内村の特徴だそうです。水冷破碎岩については、以前にもこの場で説明がありましたが、こちらは吉田先生が説明して下さった説明図です。火山からマグマが溢れ出した時に、海の中に入ったためにマグマが水によって急速に冷やされる。海底で急速に固まったために破裂するということが起きる。それが水冷破碎、破碎というのは砕けるということですね、という名前につながっているそうです。柱状節理というのは、溶岩が流れて水冷破碎岩とは違って、地上でゆっくり冷やされた時にできる亀裂だそうです。これはどこで見られますか、ということをお伺いしたところ、積丹半島の大天狗の辺りで見られるそうです。そして、こうした地質は10年に1ミリぐらいずつ隆起しているのではないかと、というお話がありました。それか

らもう一つ、地質学の立場から見て、神恵内村に地層処分ができそうな場所があるのか、という質問をお伺いしたところ、吉田先生からは、地層処分には3 km 四方の均一な岩盤が地下数百メートルにある必要がある、というお答えがありました。こういうことが必要なんだけど、神恵内村ではまだこれは分からないので、文献調査から概要調査にいくための科学的特性マップの要件などを参考にしてこれから議論していく、というお話がありました。「科学的特性マップの要件」というのは、皆さんの資料の中に入っている黄色い表になっているものが、その要件の表になっています。

そしてもう一度、伴さんのお話くださる課題に戻ってきました。今度は、伴先生からご提示いただいた「技術的な課題」です。まず、技術的な課題のその1は、ここは駄目だという基準がないということが一つ課題ではないか、という話が出ました。科学的特性マップが一つの基準だけれども、それ以外の明確な基準がない、というお話がありました。それからもう一つ、稀頻度事象、これは発生確率、本当に起こることが極々稀にしかないという事象のことだそうです。それについての評価に課題がある、というお話がありました。ガラス固化体より TRU 廃棄物のほうが脆弱な評価結果になっている、ということが課題として挙げられています。その他3番目、被ばくの限度にも明確な基準がない。そして、原子力利用のメリットと健康へどう影響するかということが釣り合いによって決まっていて、明確に原子力利用のメリットと関わらずに健康影響だけで限度が決まっているわけではないということが課題ではないか、という話がありました。これは福島原発事故以降、被ばく線量（限度）が緩和されているということをお話くださっています。そして4番目に、自治体が手を挙げるのではなく、適性の高い地域を絞り込むということをしてから候補地にしてはどうか、というお話がありました。つまり、日本の地質を見て、地質の中で候補地として挙げられるという所を先に絞ってから議論に入るといってお話だったと思います。例えばということで、火山フロントの東側という話がありました。これは当日に、この図を上げることができなかつたんですけども、日本列島の赤い線で書かれている所が火山フロントだそうです。そして、この東側ですね、太平洋側のほうの部分には火山が発生しないということで、こうした所が候補地になるのではないか、というお話がありました。他にも、いろんな技術に関する提言とか質疑があったんですけども、ここでは省略をさせていただきます。

そして、最後に講師の先生お二人からメッセージを頂きました。伴先生は、神恵内村に文献調査がやってきたのは、降りかかった問題ではないか。異なる意見を十分聞いて、ディスカッションしてもらって、村にとって一番良い解決方法を探っていただきたい。頑張ってください、というメッセージがありました。吉田先生からは、研究者として今後も役に立つ技術を開発していきたい。その情報を発信していきたい、というお話がありました。このような貴重な時間をいただいております、という話がありました。ここまでがシンポジウムの内容になります。

それから、アンケートをその場で取らせていただいたんですが、それについても少しだけご報告をさせていただきます。まず、「シンポジウムを開催して」ということで、「とても役に立った」という方が32.2%、「まあ役に立った」という方が50.8%で、合わせて83%くらいの方が

「まあ役に立った」ということでご回答を頂きました。ですが、無回答の方や「どちらとも言えない」という方もいらっしゃいます。「シンポジウムの時間配分について」です。シンポジウムの時間配分が「丁度良かった」という人が54%、「ちょっと長かった」という人が18.6%、逆に「短かった」という人が8.5%いらっしゃいます。それから「シンポジウムの開催日」です。5月29日は運動会があったり、漁師の方々は漁船で外に出るとか、海に出るとかいろいろな行事があったと聞いています。開催日については47.5%が「休日ではよかった」、11.9%の人が「平日がよかった」、そして23.7%の方が「どちらとも言えない」ということをおっしゃっていらっしゃいます。

こちらでシンポジウムの大まかなまとめの振り返りは以上になります。ご清聴どうもありがとうございました。

○ファシリテーター

佐野さん、ありがとうございました。丁寧なご説明ありがとうございます。予定よりも10分ぐらい長いよ。すごい丁寧にやってくれまして、ありがとうございます。

今お話あったようなお二方のお話をいただきました。ちなみにこの結果なんですけども、動画を撮影してましたね。動画ってもうホームページで今現在見れるようになったんですかね？

○NUMO

本日の午後2時から見れるようになっております。

○ファシリテーター

現在ひょっとしてこの中継を見てくださいってる方もいらっしゃるかもしれませんが、今いなくならないでね、とかとも思いますけど、NUMOのホームページから前回の動画についてご覧いただくことができるようになってるということです。ちなみに参加している皆さん方のプライバシーに配慮して公開していただいているんですね？

○NUMO

はい、その通りでございます。

○ファシリテーター

そういうことだそうですので、もしもよければご覧いただければ、いろんな方々の意見があると思いますので、ご参考になればと思います。

それでは、ちょっと早めなんですけども1回ここで休憩を取って、後半に入ってテーブルワークに入りたいと思っております。前の時計で午後8時15分まで10分間休憩を取ろうと思えます。その間にテーブルの組み換えとかをやらせていただきたいと思いますので、お時間いただきたいと思えます。10分後、またお会いしましょう。

#### (4) テーブルワーク（映像のみ公開）

#### (5) テーブルワークにおける状況説明

##### ○ファシリテーター

それでは共有を始めます。今、中継を見てくださっている方もいらっしゃると思いますが、今まで何をやってきたかという、5月29日に開催されたシンポジウムについて振り返って、対話の場の皆さん方に感想だとか意見だとか、この後に向かった質問だとか、提案だとかといったことについてお話をさせていただきました。そういう時間を今まで取ってまいりました。

まず最初に、場に出てきた感想ですね、どんな感想があったかについてファシリテーターから報告をしてもらいたいと思います。どこからいく？杉田いける？お願いします。

##### ○テーブルファシリテーター

はい。まず交付金依存性に対する否定的なお話がシンポジウムの中でありましたが、そこに対して、ちょっと不快感を感じたなというお話があって、交付金自体にも地域が好きに使えるような柔軟性を持ったようなものになってくれると、否定的な話というのも変わるのかなという感想がありました。

2つ目としては、一旦絞り込んでから場所を選んでは、というお話があったんだけど、そこに対しては、そりゃそうだよな、とちょっと納得したという感想がありました。

##### ○ファシリテーター

なるほど、伴さんの提案にあったやつですね。もう少し地点を最初から絞り込んだほうがいいんじゃないかという提案があったんですけど、その話だったと思います。ありがとうございます。次のテーブルをお願いします。

##### ○テーブルファシリテーター

最初は、私がいたテーブルはシンポジウムに参加していなかった方のテーブルになります。そこから出た意見として、感想として、交付金のためだけに文献調査をしているわけではない。お金の問題だけではない。というのは、やっぱり場所柄的に泊原発の隣の村ですので、そういったこともやっぱり関係しているかなとあります。もう一つが評価、どうだこうだという話なんですけど、住んでみてから評価してほしい。交付金をもらって贅沢をしているような言い方に受け取れることも多々あるので、それは心外だなという意見でした。以上です。

##### ○ファシリテーター

ありがとうございます。2点目は、さまざまなご意見があるかと思いますがご意見をおっしゃっていただくのであれば、ぜひ地域のことをもっとよく知って、住んでみたくうえで評価していただければ、というお話だったように思います。ありがとうございました。

○テーブルファシリテーター

2つということですが、1つだけピックアップさせていただきました。いろんな方が参加され良かったという話のあと、でも1回の参加ではやっぱり理解ができないよね、という感想がありました。特に初めての人というところで、私のテーブルはシンポジウムに参加されましたし、この対話の場にも何回も来ている方なんですけれども、何回も来ていれば分かってくる。分かってくるけれども、やっぱり最初だと言葉が、専門用語が分からないのはもちろんなんですけど、専門用語ももうちょっと広くくりで馴染みがない言葉といいますか、日頃聞かない言葉だといいますか、そういう言葉で話されるとやはり理解ができないというような感想がありました。以上です。

○ファシリテーター

伴さんと吉田先生とどっちもということですね。ありがとうございました。

○テーブルファシリテーター

まずはシンポジウムの感想です。質問に対する先生方の考え方を討論型で知りたかった。例えば、ヨーロッパは一枚岩の岩盤に入れるのに、日本は地層で、ここだと水冷破碎岩がテーマになっていると。その違いがお互いの先生の立場から討論していただけるようなことが聞きたかったな、というようなことを感想でいただきました。

○ファシリテーター

ありがとうございます。他もしゃべっていく？今感想を聞いているんですけどもいいですか？

○テーブルファシリテーター

右後ろのテーブル、シンポジウムに参加されなかったグループです。シンポジウムでお二人方が来ましたが、先生方が来て話すのはちょっと今の時期じゃないんじゃないか。それはもっと先にして、神恵内の交付金をどう使うかとか、そういうことをもっと先に話してはどうか、というご感想、なかばご意見ですが、感想が出ました。

○ファシリテーター

ありがとうございます。これはあれですかね、交付金の使い方を村の中で少し話をしてから、その後に違う立場の人の意見を伺うほうが良かった、という意味ですかね？

○テーブルファシリテーター

はい、その通りです。

○ファシリテーター

どうもありがとうございます。感想について今お伺いいたしました。その後、質問の時間を取りましたね。各テーブルから質問が出たと思います。各テーブルから1つ代表的な質問、質問だけでいいです、今答えはいいですので質問を紹介してください。

○テーブルファシリテーター

質問というか、かなり盛り上がったところなんですけれども、いま神恵内と寿都町、「2町村以外で手を挙げる所はないのですか？」という質問がありました。テーブルの想いとしては、それ以外にも手を挙げてもらわないと、安全な場所は分からないんじゃないのか、という質問としてありましたので、質問だけです。

○ファシリテーター

ありがとうございます。

○テーブルファシリテーター

場所の選定について、無人島を国有化して処分場を造ってみたら。

○ファシリテーター

これ質問として出たのね？どうなんですか。そういう方法があるんでしょうか、という質問が出たんですね。ありがとうございます。

○テーブルファシリテーター

質問の中で結構たくさん出たんですけれども、一番長い時間を使ったのが、このウラン238の話で結構時間を使いました。ウラン238とかプルトニウムというのは、そもそもTRU廃棄物として処分されるものなのか。それともガラス固化体に入っているものなのか、というところで話が出て、少量であればTRUにもガラス固化体にも入っているという話をされて、少量ってどんな少量なんだみたいな。それはどのくらい危険なんだ、という質問が結構な時間を使われておりました。ここに関しては詳細な説明をしてほしいという参加者からのお話でした。以上です。

○ファシリテーター

ありがとうございます。では次。

○テーブルファシリテーター

私たちのチームから出た質問ですが、地質調査、概要調査に進むための条件はどんなものなんですか、というのが出ました。よく言われるのが、「知事が反対している限りは進めません」というのはあるんですけれども、では知事が賛成にまわったらそれで進めるのか、ということ必ずしもそうではないはず。

○ファシリテーター

質問は何ですか？

○テーブルファシリテーター

では、何があったら進むことができるんでしょうか？そして NUMO は知事が反対しているのに、それをどうしようとお考えなんですか、というのが質問です。

○ファシリテーター

なにになに？

○テーブルファシリテーター

概要調査に進むためには、どんな条件が揃ったら進むことができるんでしょうか？

○ファシリテーター

知事の話は？

○テーブルファシリテーター

知事は反対してますけれども、それを NUMO としてはどうお考えなんですか？

○ファシリテーター

どんな質問だったんですか？

○ファシリテーター

スタンスとしては今、知事が反対してたらダメなんだよね。そうしたら、もうだめなんだったら、知事が賛成したら進めるのか、そうじゃないんじゃないか、というお話だったと思います。

○ファシリテーター

ということだそうです。もう 1 つあったんだっけ。

○テーブルファシリテーター

はい。うちのチームで出た質問は、放射性廃棄物を地上に 200 年も置いておいて大丈夫なのか。そして 200 年どこに置くんですか、という質問がありました。

○ファシリテーター

ありがとうございます。というような質問が出てきました。それぞれについてはテーブルで一旦答えてもらってるんですけども、後で時間があったら回答してもらいます。

次に、提案事項です。これから先、対話の場とか、どうしていったらいいのかということにつ

いて、ぜひご提案くださいということで出ました。古家さん、お願いします。

○テーブルファシリテーター

2つです。1つ目、今回のシンポジウムには、お二方の専門家の方いらっしゃったので、そのお二人以外の専門分野の専門家の意見も聞きたい。いろんな分野の人を聞きたいということが1つと、もう1つは、一人でも多くの人、村民の一人でも多くの人にお話を聞いてほしい。それで時期の話になったんですけど、ウニ漁の時期は駄目だ、なので春頃がいい、という提案をいただきました。以上です。

○ファシリテーター

ありがとうございます。時期的なものまでご提案いただきました。次お願いします。  
1つと言ったような気がするんですけど。

○テーブルファシリテーター

ごめんなさい、一言ずつでいきます。交付金の使える範囲が知りたいので、そのための説明をしてほしい。新聞記事でいろんなのあると思うんです、それを対話の場に返してほしい。違うなら違うと返してほしいということです。あとは勉強会を、ここの対話の場だけではなくて村民に向けての勉強会をしてほしい、という意見があって。すみません、3つ持ってきてしまいました。

○ファシリテーター

ありがとうございます。次お願いします。

○テーブルファシリテーター

まず、感想のところ一度戻るんですけども、感想のところが出たのが、質問に対する討論会みたいなものもいいですよ、やりたかったね、という話が、ここを踏まえて提案のところに来ています。もう少しテーマに対する討論を聞きたかった。ということから入ると、神恵内内外で地層処分について興味を持っている人も巻き込んでいきたいよね。それだったら、日曜日の午後1時半ぐらいからやっている、「そこまで言って委員会」って皆さんテレビ番組ご存知でしょうか。あれを神恵内でやろうじゃねえか、という話になって、やしきたかじんみたいな討論会で著名人を呼んで、辛坊さんとか橋下徹さんとか放射性廃棄物と関係ない専門家もちょっと話をして、一緒に討論をしてもらったらいいんじゃないかなど。名前も決まっていて、「神恵内を勝手に語って委員会」という名前でやろうじゃないか、と。この中で特措法の話ですとか、地層処分の良さは分かったんだけど、反対する人の話も同時に聞いてみたいなという話で、ぜひ提案でこれをやってください、という話になりました。

○ファシリテーター

ありがとうございます。

○テーブルファシリテーター

提案として、賛成・反対両方の先生の討論だったりとかも、そういう場があったらいいという話だったんですが、どんな場を作るにしても、よその地域から来た人たちが好き勝手に、「この町のこの村の地場産業で頑張ればいいじゃん」とか、「ここにいる人たちがもっと頑張ればいいじゃん」みたいな好き勝手な事を言ってほしくないんだよね。これまで頑張って一生懸命いろんな策を練ってやってきたのに、なんか一度も神恵内に来たことがない人が、ちょっとポツときて好き勝手に言ってくれるような場って、なんかすごく嫌だな、というそんなお話も出ていました。以上です。

○ファシリテーター

どうもありがとうございます。提案あと1点ね。

○テーブルファシリテーター

私たちのグループから出た提案1つは、シンポジウム、今回やりましたけれども、この問題は神恵内だけの問題ではないし、寿都だけの問題ではないです。もっとたくさんやればいいし、全国各地で、ぜひ、やったらいいんじゃないか、というご意見、提案が出ました。

○ファシリテーター

ありがとうございます。いろんな所でやったらどうでしょうか、という提案を頂きましたということです。提案事項については、たくさん頂きましたし、感想だとか質問をたくさん頂きました。提案事項は場に出なかったものについても後で全部回収して、こんな提案がありましたというのは、我々これから先、運営に関して参考にさせていただきたいと思います。

ちょうど午後8時半になっちゃって質問に答えてる時間がないんだけど、どれか一個だけでも答えてもらいます？大丈夫かな。すごく時間がかかりそうな質問もあるので、今日はちょっと時間になりましたので、これで一回終わりにしたいと思います。

皆さん、長い時間どうもありがとうございました。これで私のほうの進行終わらせていただきます。

○NUMO

大浦さん、佐野さん、どうもありがとうございました。

それでは、以上をもちまして第8回対話の場を終了いたします。次回は第7回の続きといたしまして「地層処分のリスクと安全対策について」をメインテーマとして実施いたします。日程は8月上旬を予定しておりますので、詳細は改めて調整させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○ファシリテーター

どうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

以上